

BPT (バイオマスプロジェクトチーム) だより No.21

http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e_ichihai/bio/biotop.htm



平成18年7月31日 (月)
バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

1. 事業の進捗状況について

○山田バイオマスプラント一斉運転 (7月4日～6日)
(独) 農村工学研究所が香取市 (旧山田町) で実施しているバイオマス多段階利用の実証試験において、物質収支・エネルギー収支を把握するため、メタン発酵プラント、メタン燃料化設備、炭化装置、水蒸気爆砕装置などの一斉運転が行われました。今回のデータを解析の上、今後も一斉運転が行われる予定です。



吸着分離型メタン濃縮装置

○エコフィード工場の着工 (7月10日)

コンビニエンスストアの賞味期限切れ食品や食品工場から出てくる余りなどを飼料化し、畜産飼料として製品化する「エコフィード工場」が、7月10日に着工されました。

この施設は、国のバイオマスの環づくり交付金を活用し、佐倉第3工業団地内に建設されるもので、完成は、平成19年の初夏になる予定です。

この工場で生産された飼料は、県内の養豚・養鶏農家に供給されることとなり、今後、資源循環型社会づくりに大きく貢献することが期待されています。



工場の完成予想図

2. 国・大学・研究機関等との連携について

○ (独) 産業技術総合研究所の研究成果報告・展開普及検討会 (7月10日)

千葉県のごみや家畜ふん尿を事例として、(独) 産業技術総合研究所によって実施された「地域施策に対するLCAの適用手法の研究開発」の研究成果報告及び展開普及検討会が行われました。

県としては、今後も同研究所が実施する研究にデータ等の提供や意見交換等で協力していく予定です。



研究成果報告・展開普及検討会の風景

3. 普及啓発活動について

○生涯大学校（7月1日）

生涯大学校東葛飾学園江戸川台校舎にて「地球環境」をテーマにバイオマスの利活用の促進も含め講演を行いました。（出席者23名）

「バイオマスを活用するうえでコストはどうか?」「京都議定書の温室効果ガス削減目標は達成可能か?」などの積極的な質問がありました。



生涯大学校における講演風景

○環境シンポジウム（7月9日）

柏市第2清掃工場にて開催された「リサイクル社会の構築に向けて」をテーマとした環境シンポジウムで「バイオマスの利活用に向けた千葉県の取組」について講演を行いました。（出席者約40名）

パネルディスカッションでは、家畜排せつ物の利用として、堆肥化は窒素過多の問題がある、メタン発酵が考えられるが市街地では無理、地域にあった利用を考える必要がある、などの意見が出されました。

○富津市エコスクール（7月11日）

富津市民会館で市民を対象として開催しているエコスクールの講義の一環としてバイオマスについて講演しました。（出席者23名）

これから導入が見込まれるバイオエタノール車について日本の自動車メーカーの取り組みはどうか、メタン発酵等のバイオマス施設は危険ではないのかといった率直な質問が出ました。



富津市エコスクールにおける講演風景

○平成18年度廃棄物対策清掃事業研修会（7月20日）

千葉県教育会館で市町村・一部事務組合及び県関係機関の担当者に対してバイオマスについて説明しました。

生ゴミからエネルギーを取り出すメタン発酵や廃食油を自動車の燃料であるBDFにする方法を紹介しました。



廃棄物対策清掃事業研修会における説明風景